阿波人形浄瑠璃公演 in小松島

日時
令和6年10月25日(金)
開演18:30(開場18:00)

演目
・阿波人形浄瑠璃についてのお話
解説:佐藤憲治(徳島県立阿波十郎兵衛屋敷　館長)

・阿波人形浄瑠璃公演「傾城阿波の鳴門　順礼歌の段」
太夫:長野紫寿　三味線:竹本友和嘉　人形:勝浦座

会場
小松島市サウンドハウスホール
徳島県小松島市小松島町字新港9－10

料金
前売券500円　当日券700円

チケット販売
小松島市サウンドハウスホール、小松島市役所1階総合案内、
本・文具のキダブン、小山助学館本店 、黒崎楽器本店

お問合わせ
小松島市サウンドハウスホール
TEL:0885-32-3565　FAX:0885-32-4145
e-mail:myricahall@city.komatsushima.i-tokushima.jp

出演団体プロフィール

友和嘉会（太夫：長野紫寿、三味線：竹本友和嘉）

平成9年に、竹本友和嘉師匠を指導者として発足し、現在、会員数は20名となり、徳島最大の語りの会へと成長した。会の活動は幅広く、徳島県内はもとより、淡路・大阪等の大会にも積極的に参加している。また、犬飼農村舞台や鎌瀬農村でも毎年公演を行っている。

竹本友和嘉は、義太夫節浄瑠璃の重要無形文化財（総合認定）保持者で、東京・国立演芸場での女流義太夫演奏会に出演するほか、数多くの海外公演にも参加している。（平成14年人形浄瑠璃因協会奨励賞、平成21年人形浄瑠璃因協会女子部門奨励賞、平成29年とくしま芸術文化奨励賞、令和６年徳島県知事表彰受賞。）

勝浦座

江戸時代の寛政年間、当時の久国村名を付けて「国村久太夫座」として、村の若者たちによって発足。天保の飢饉で活動が中断し、明治の初めに復活したが、昭和6年、村の農村舞台の火災で座の頭・道具等を焼失して、休止状態となった。昭和21年に吉井（現・阿南市吉井町）の人形座の道具一式を買い取って復活し、現在の「勝浦座」となる。上演できる外題は28演目にもおよび、国内外での上演のほか、毎年、徳島市八多町にある「犬飼農村舞台」で人形浄瑠璃芝居を奉納している。

また、小松島西高校勝浦校民芸部をはじめ、地元の小・中学生の指導も行い後継者育成にも力を入れている。阿波人形浄瑠璃を代表する座として、国立劇場や能勢浄瑠璃シアターなどの県外公演、アメリカ、スイス、オーストリアなど海外での公演の経験も豊富である。2019年9月にはパリのユネスコ本部とパリ日本文化会館で公演を行い好評を博した。